

網状赤血球偽性高値を呈した急性骨髄性白血病の一症例

◎竹本 賢一¹⁾、木村 美香¹⁾、川崎 晴希¹⁾、寺田 早良¹⁾、村本 美紅¹⁾、大江 宏康¹⁾
金沢大学附属病院¹⁾

【はじめに】

従来、網赤血球（RET）測定は、ニューメチレン青染色液等を用いた視算法によって測定されていた。近年では自動血球分析装置による測定が主流となっている。今回、シスメックス社の多項目自動血球分析装置 XN-3100 において網赤血球数が偽性高値を示した症例を経験したので報告する。

【症例】

60代、女性。20XX-1年12月前医にて骨髄中の骨髄芽球50%と増加、三系統に異形成を認めた。遺伝子染色体検査では、正常核型、CEBPA 変異、TET2 変異を認め、CEBPA 変異を伴う急性骨髄性白血病（AML）と診断された。当院 XN-3100 にて、RET 数は $66 \times 10^9/L$ （基準値： $26.4 \sim 93.2 \times 10^9/L$ ）であった。他院にて寛解導入療法後、地固め療法 1 コースを施行した。骨髄移植目的に、20XX 年 4 月に当院を受診した。

【20XX 年 4 月の検査所見】

WBC $3.06 \times 10^9/L$ 、RBC $2.79 \times 10^{12}/L$ 、Hb 8.9 g/dL、PLT

$129 \times 10^9/L$ 、RET $937 \times 10^9/L$ (33.6%)（視算法：5.9%）

【経過】

20XX 年 7 月に非血縁者間骨髄移植を実施した。分析装置による RET 数は 20XX 年 6 月に $999 \times 10^9/L$ 以上であったが、次第に減少し、9 月に基準範囲内となった。

【考察】

XN-3100 における RET 数測定は、RET チャンネルにて網赤血球の核酸を蛍光染色し、蛍光強度が弱い赤血球と分類している。本症例はスキッタグラム上で、患者赤血球が通常の成熟赤血球よりも蛍光強度が強くシフトしていた。赤血球輸血後に、輸血由来赤血球は正常の弱い蛍光強度を示したため、患者赤血球を全て網状赤血球と誤認識していた。骨髄移植後にドナー由来血球の造血が起こり、AML 発症時の赤血球が時間経過とともに崩壊したことで RET 数が正常化したと考えられた。

【まとめ】

AML 治療経過中に網赤血球数偽性高値を示し、骨髄移植後に正常化した症例を経験した。